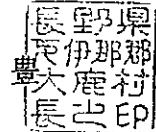


大産建第185号
平成20年10月16日

国土交通省道路局長 殿

大鹿村長 中川



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成20年9月19日付国道企第37号にて依頼の標記については、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

長野県 大鹿村

私たち中山間地域に暮らす住民・自治体においては、唯一の生活道路として国道が利用されておりますが、その国道が狭隘であったり通行不能であることから満足に道路を利用出来ない状況にあります。また、地形的な制約によりその他の道路で代用することができないため、産業立地など定住基盤の進展が期待できず、過疎化・高齢化による地域の活力低下がいまだに進行しています。

真に必要な道路とは、経済的な投資効果が高い道路と、地域の暮らしを守り活力を取り戻す最低の交通基盤としての道路の両極の中にあると思われます。しかし、未整備地域の交通基盤としての道路は、投資効果などの議論から整備が進まないのが現状であり、中部圏広域地方計画の分野別発展戦略の展開による地域の持続的発展が期待できません。

そのためには、広域圏間の連絡や高規格道路など重要路線との連絡機能を有する道路であったり、未整備なために地域が疲弊している道路については、真に必要な道路として本計画に明確に位置づけ、具体的な整備計画を早急に検討されることを要望します。また、道路管理者が県である国道であっても、国として道路行政を進める上で整備が必要であることから、他の重要路線と一体的な整備がされるよう県と連携して事業を推進するなど、本計画に位置づけることを要望します。

②-1 地域の現状と抱える課題

長野県 大鹿村

○現状

本村は長野県の南部、南アルプス赤石岳の麓の山間地域に位置し、地形的条件が悪く道路整備が進まないこともあり、平成20年9月末現在人口は1,247人に減少し、高齢化率も50.2%と担い手不足が深刻な状況となっています。

地理的には役場所在地よりJR伊那大島駅まで17km余、地域の中心都市飯田市へは35kmあり、主要地方道松川インター大鹿線を経て国道153号によって結ばれています。公共交通機関は松川インター大鹿線をJR伊那大島駅まで4往復の定期バスを運行していますが、この路線は急カーブの連続のため45分も要することから、通勤・通学を困難にし、若者定住に多大な影響をもたらしています。

また、村内を南北に縦断する国道152号は、長野県上田市の国道18号を起点に静岡県浜松市の国道1号を結び、長野県と静岡県を南北に結ぶ重要路線ですが、本村と伊那市との境の分杭峠、飯田市との境の地蔵峠を含め村内31kmの内25kmが未改良と非常に遅れており、狭隘で急カーブのため大型車の通り抜けが不能となっています。このため、上田市方面からは伊那市高遠町から、浜松市方面からは飯田市上村から国道153号や中央自動車道へ迂回して通行しなければならず、三遠南信自動車道と接続する国道でありながら、定住の促進、産業・経済の活性化、他地域との交流の促進等、道路がもたらす恩恵を受けることができない現状となっています。

特に地蔵峠は通行不能区間で、飯田市道に迂回して交通を確保していますが、中央構造線沿いの脆弱な地質のため地すべりや土砂崩壊が毎年発生し、本年も7月の法面崩壊により来年4月まで通行止めが続いており、国道の迂回路としては全く機能してません。このため、道路復旧に係る自治体の財政負担や日常生活への支障、観光客の減少による沿線の観光や産業に携わる方々の損失など非常に大きな問題となっており、通行不能区間の解消は地域住民の悲願となっています。

また、本村は東に南アルプスが連なっており、南北に縦断する国道152号、西の伊那谷へ結ぶ主要地方道松川インター大鹿線の2路線のみが村外への連絡道路であり、東海地震などの大規模災害の際には未改良区間の崩壊など、交通の寸断による全村孤立が懸念されます。

○課題

国道152号は太平洋新国土軸と長野県を結ぶ重要路線であり、三遠南信自動車道の現道活用区間として平成20年代後半の供用開始により多くの人や物が行き来することが予想されます。しかし、大鹿村区間が未改良のため、国道152号は交流・連携を支える交通ネットワークとして機能しないばかりか、大規模地震や災害の際のルートとして利用できず深刻な問題も想定されることから、国道152号が国土を南北に連絡する重要路線として位置づけられ、早期に改良されることが大きな課題といえます。

特に三遠南信自動車道に接続する地蔵峠区間(通行不能区間)は、中央構造線の真上に位置する脆弱な地質と急峻な地形のため、技術的に相当困難な改良事業が予想され、長大トンネルなどにより膨大な改良費用を要することが予想されるため、道路管理者の長野県だけでは到底実施できない大規模事業となることから、国との連携による改良計画の策定と国直轄事業を含めた事業の実施などにより、交通ネットワークの整備が図られる必要があります。

②-2 地域の目指すべき将来像

本村は南アルプスの自然や大鹿歌舞伎などの文化財、大西公園の桜やヒマラヤの青いけしなど観光資源に恵まれ、通年観光客が訪れることから、農林業と観光が連携した村づくりを目指して過疎対策事業を実施してきましたが、過疎化に歯止めがかからず、人口の減少とともに高齢化率は長野県で2番目に高い水準となっています。

平成14年3月に策定した第三次大鹿村総合振興計画では、目指すべき将来像を「ゆとりと感動 楽しみを発見する 大鹿村」―大鹿に暮らす自信と誇りを求めて―としています。村づくりの重点課題を「地域の魅力ある資源を活用した観光振興」とし、自らの自然、文化等の資源を有効な資源として活用し、産業起こしによる雇用の場づくりとともに、都市住民等との交流を拡大しながら定住人口の増加に結び付けていくこととしています。また、就労や教育、文化等、一定の都市機能を自由に利用できるよう、交通網の整備により生活を支える基本的な機能の整備を進めるため「居住、就業したくなる環境整備」をもう一つの重点課題としています。

地理的条件の悪い本村においては、過疎・高齢化に歯止めをかけるため安心して村内外へ通行できる道路網の整備が第一です。国道152号と主要地方道松川インター大鹿線の改良を進め、交流・連携を促進し、自立した持続可能な村となると同時に、地場産業起こしによる若者定住促進により、安心して住み続けられる村としていきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

長野県 大鹿村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	国道152号通行不能区間の解消と狭隘区間の改良	三遠南信自動車道と接続する国道として、中京圏と長野県中部を結ぶ交流・連携の交通ネットワークが構築され、南アルプスの豊かな自然や地域文化、食文化などを支える農山村の自立と持続可能な地域の形成が図られる。 また、地域の生活道路として産業をはじめとする活力の向上、安全・安心の確保が図られる。	